

本時案

第1時（見通し1にかかわる授業。太枠部分が特に検証にかかわる部分。また授業後の質問やビデオ録画の考察等の方法を使っても検証を行う）

(1) ねらい

- 「読み聞かせ」を聞き、内容を自分なりに聞き取る。
- 読み手となる目標をもち、聞く活動や話し合い活動を通して、読み手の思いや読み手となる課題を理解する。

(2) 準備

(教師) 学習プリント① 自己評価カード① ビデオカメラ

(生徒) なし

(講師) 「読み聞かせ」の外部講師を3名依頼。講師は「読み聞かせ」用の本や資料を用意する。

(3) 展開 (1/6) (於) 視聴覚室 (カーペット敷きの教室)

学習活動	時	学習への支援及び留意点	評価項目(評価方法)
「読み聞かせ」を聞こう			
○単元の流れとねらいを知る。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が読み手となる時の聞き手と同様に、床にお座りをした形となって並ぶ。集中して聞きやすいよう語り手になるべく近い位置で、奥行き横幅ともに絵本の見える位置とする(机・椅子などは、講師との相談で用意)。始業前に、単元名・単元のねらいを板書しておく。 ・教室のコーナーを利用して生徒は扇形に並ぶ。扇の^{かなめ}要の位置に講師が座る。窓際は暗幕やカーテンを引き、「読み聞かせ」に集中できるようにする。 ・聞き手の思いを実感することから読み語り活動を始め、読み手として本を読み深めていく単元の流れとねらいを説明する。 ・指導者は外部講師を簡潔に紹介をする。 	
○聞き手の思いを実感するために、「読み聞かせ」を聞く①	18	<ul style="list-style-type: none"> ・「読み聞かせ」の進行そのものは、講師の判断で行う。 ・指導者は生徒の表情が見取れ、講師の様子があがえる位置で観察を行う。また、「読み聞かせ」の雰囲気をごわさないために、その位置からできるだけ動かないようする。ビデオ撮影協力者も同様の注意を払う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み聞かせ」1 「しりとりのおきなおうさま」 ・「読み聞かせ」2 「たまご」 ・「読み聞かせ」3 「へびいちのすけ のはらうたより」 ・「読み聞かせ」4 「くまさぶろう」 (講師名省略) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み聞かせ」終了後、しばらく沈黙の時間をつくり、一人一人が「読み聞かせ」の余韻を味わえるようにする。 ・【関・意・態】(努力を要する状況)への方策 聞くことへの集中力が不足している場合は、ページがめくられる前に場面を想像したり、講師がどんな思いで作品を読んでいるのかを考えながら聞くように助言する。 	<p>【関・意・態】 聞き手の思いを実感するために、「読み聞かせ」を集中して聞いている。(観察・プリント①の記録、自己評価カードの記録、ビデオ録画の状況)</p>

感想や質問を出し合い、読み手になるための手掛かりを見つけよう

○講師に感想を述べたり質問をしたりする。
・3班になって話し合う。

18

- ・一般的に行われている「読み聞かせ」では、このまま聞き手の判断や想像に任せて終了する。今回は、読み手を目指して読む力を付けることをねらいとする「読み語り活動」であることを説明し、「読み聞かせ」後に行う話し合い活動のねらいを確認する。
- ・講師数に合わせた班分けを事前に行っておき、班（車座）となるよう指示する（今回は講師3名を予定→3班）。
- ・各班ごとに指導者1を配置し、話し合いの司会を指導者が行う。生徒の発言を感想・質問に分けたり、発言内容を「内容（主題）」「読み手としての思い・工夫」など、今何について話し合っているか、生徒が明確にとらえられるようにしながら運営する。
- ・各司会者は、以下のねらいについて、他の班でもそのねらいについて話し合えるように必要な情報交換を適宜行う。
 - * 「読み聞かせ」のよさを考えるのに適した話題
 - * 「〃」の心構えや読み方の工夫を考えるのに適した話題
 - * 「〃」や読み深めることへの意欲につながる話題
 - * 他の班の話し合いに活力をもたせられる話題
- ・生徒の発言に対しては、賞賛の言葉掛けをしてもらうように講師に依頼しておく（生徒の意欲化を図るため）。
- ・全体としての話し合いのまとめは行わない。
- ・【関・意・態】（努力を要する状況）への方策
発表・質問については、観察とワークシートの記述内容とを合わせて個別指導する。
- ・【読】（努力を要する状況）への方策
印象深い場面を想起するように助言する。その場面を確認し、印象深い理由を考えることによって、作品の主題や筆者の思いを自分なりにとらえられるようにする（プリント①の記録、自己評価カードの記録、ビデオ録画の状況を資料として授業後に指導する）。
- ・【言】（努力を要する状況）への方策
印象に残っている言葉を想起し、なぜ記憶に残るのかを考えるよう助言する。そのことより、同じ言葉でも一人一人によって受け止め方が違うことに自ら気付けるようにする（プリント①の記録、自己評価カードの記録、ビデオ録画の状況を資料として授業後に指導する）。

【関・意・態】

「読み聞かせ」を聞いて、感想を發表したり質問をしたりしている（また、それらをよく聞いている）。（観察、プリント①の記録、自己評価カードの記録、ビデオ録画の状況）

【読むこと】

「読み聞かせ」を聞き、作品の主題や筆者の思いを自分なりに聞き取っている。（観察、交流時の発言内容、プリント①の記録、自己評価カードの記録、ビデオ録画の状況、授業後の発話）

【言語～知・理・技】

「読み聞かせ」を聞くことを通して、語感の豊かさを感じた語句を指摘できる。（プリント①の記録、自己評価カードの記録、授業後の発話）

「読み聞かせ」を味わおう

○再度聞き手の思いを実感するために、「読み聞かせ」を

10

- ・読み語り5 「あらしのよるに」
- ・再度、「読み聞かせ」を聞き味わう。
- ・「読み聞かせ」終了後、しばらく沈黙の時間をとり、講師への感謝の言葉で締めくくる。
- ・講師の代表からも一言いただく（今後の活動の意欲につながる

【関・意・態】

聞き手の思いを実感するために、「読み聞かせ」を集中して聞いている。（観察

聞く②	ように)。 ・【関・意・態】(努力を要する状況) への方策 聞くことへの集中力が不足している場合は、ページがめくられる前に場面を想像したり、講師がどんな思いで作品を読んでいるのかを考えながら聞くように助言する。	・プリント①の記録、自己評価カードの記録、ビデオ録画の状況)
-----	---	--------------------------------

第1時授業後から「一人読み」が始まる期間で

○学習プリント①の記録をする。 ○自己評価①を記録する。	・授業終了後に学習プリント①と自己評価カードを渡し、記録及び提出は翌日と指示する。	
	・カード①、記録①を集めて、個別指導や次時の指導に生かすために、メモ内容を分析し今後の活動に生かす。また、2や1の欄に印をした生徒の指導の工夫を図る。 ・【読】(努力を要する状況) への方策 印象深い場面を想起するように助言する。その場面を確認し、印象深い理由を考えることによって、作品の主題や筆者の思いを自分なりにとらえられるようにする(プリント①の記録、自己評価カードの記録、ビデオ録画の状況を資料として) ・【言】(努力を要する状況) への方策 印象に残っている言葉を想起し、なぜ記憶に残るのかを考えるよう助言する。そのことより、同じ言葉でも一人一人によって受け止め方が違うことに自ら気付けるようにする(プリント①の記録、自己評価カードの記録、ビデオ録画の状況を資料として)。 ・【関】(努力を要する状況) への方策 個々に「聞けなかった」理由を確認し、次段階の流れを踏まえながら、相談していく(プリント①の記録、自己評価カードの記録、ビデオ録画の状況を資料として)。	

この後、第2時までが、聞き手を想定した本選び期間となる。どの程度、期間の長さをとるかについては、生徒の様子、校内事情、相手先(例えば保育園など)の予定、などを考慮に入れ決めていく。

なお、教室に指導者・講師で選択したおよそ80冊の絵本を教室内に置いて、自由に閲覧・選択できるようにする。また、補助資料として絵本リスト(資料集→学習プリント→絵本リスト and どんな本を誰が選んでいるかな表のこと)を提示する。なかなか自分で決められない生徒には、個別相談の機会をつくる。

第2時まで、生徒が選択した読み語り用絵本リストを作成しておく。

第2時(太枠部分は、見通し2につながる部分。ここも授業後の質問やビデオ録画の考察等の方法を使って、見通し2の検証につながる活動となっているか確かめていく)

(1) ねらい

○「読み語り」を目指し、想像力を生かして、自分の読み(読み深めの土台)をもつ。

(2) 準備

(教師) 絵本リスト and どんな本を誰が選んでいるかな表(本を選んだ生徒名を併記したもの) 学習プリント② 学習プリント②掲示用に拡したもの 自己評価カード

ド② ビデオカメラ

(生徒) 「読み語り」用に自分が選んだ本 筆記用具

(3) 展開 (2/6)

学習活動	時	学習への支援及び留意点	評価項目(評価方法)
<p>○学習のねらいを知る。 ・プリント②の1～3まで記入する。</p>	7	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">最初はやっぱり一人で読もう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の本の準備状況を確認する。 ・一人読みの時間を設定する理由を説明し、読み深めの意欲付けとする。 ・「読み語り」作品／読み手一覧表を掲示し、一人一人が自分で本を選択したそれぞれの思いがあることを強調する。 ・生徒は2作品を選択している。一番好きな作品から読み始める。もう一方の作品は、読み語り発表時に時間に余裕があったり、園児が「他の本も聞きたい。」といった反応をした時の本である。したがって、あくまでも予備としての扱いをする。 ・同一の本を選択している場合は、当事者同士で交換して読み深めを行う。 ・学習プリント②を配布し、記述について説明する。 ・プリントの1～3まで記述するように指示する。3については、簡潔で率直な気持ちを書けばよいことを伝える。 	
<p>○プリント②の4～5を記入しながら自分の読みを構成する。</p>	33	<ul style="list-style-type: none"> ・前半10分は、黙読にて作品にのぞみ、後半23分は音読にて行うように指示する。 ・作品全体を黙読してから、部分の表現にあたるように指示する。 ・読字、語彙の質問には答えるが、内容理解については自分の受けとめ方で押さえるよう助言する。 ・プリント②-4の記述は、思い付いた部分からでよく、簡潔なメモを心がけ、まんべんなく読み通すように指示する。また音読によって気付く部分もあるので、その際に加筆することで自分なりに4～5をまとめられればよいと助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>個別活動の時間である点を生かして、前時の自己評価の状況を押さえて個々に支援する。その際、「なぜその本を選んだか」という本人の考えを大切にし、その理由が顕著に表れている箇所を自ら指摘できるように助言する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今の中核(プリント②-5)を押さえるように指示する。 ・音読に移る際には、隣の人に聞こえる程度に抑え、今回は大きな声は出さない。あくまでも読みを深めるための音読であることを再認識するよう説明する。 ・音読に移る際は、上記の時間設定を目安とする(反対に文章量が多い作品を選んでいる生徒は、音読の時間であっても黙読をしていてもかまわない)。また、文字のみでなく「絵」にも留意し「絵を読む」という発想をもてるよう助言していく。 ・音読の際は、本を自分側に見える形式、聞き手に本を見せる形 	<p>【関・意・態】 自分一人の読みを大切に読み込もうとしている(含他者の読みを知りたい思いの増加)。(観察、質問法)</p> <p>【読むこと】 自分なりに筆者の意図を考え、主な内容を読み取る。 (観察、質問法、プリントの記述内容)</p> <p>【言語～知・理・技】 文脈中での語感を具体的にとらえようとしている。(観察、質問法、プリントの記述内容)</p>

	<p>生徒が話し合っている雰囲気を実演し、気さくな雰囲気づくりを行う（拡大プリントを利用）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班編成は、作品の特徴・組合せの面白さ・男女混合・園児の人数に合わせた班数などの条件をクリアするものとして構成する（3～4人程度）。10班編成。 ・【深め観点(内容・表現・語感)】に該当する内容をを中心に、話し合いを行うよう指示する。 	
<p>○前時の読みをもとに読み深めの観点にそって互いの読みを交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いた点はプリント③にメモしておく。 	<p>25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間支援を行う（話し合いが停滞している・一部の生徒が全く発言していない・通り一遍に済ませてしまい深まりが不足している・比較的短い作品を扱っていることを理由に深まりが不足している・早い段階で音読希望の出ている、などを支援が必要であると判断しながら）。 <div data-bbox="443 698 1094 1072" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>班別活動である点を生かしてできる限り個の支援をする。その際、一人一人が、一人読みでとらえた自分の読み（作品の中心に対する考え、疑問、分からない部分など）を、解決するべく話し合いが進んでいるかを確認しながら行う。具体的には、あらかじめ各自の一人読みのプリント記録を確認しておき、個々に1ないし2の課題をリストアップしておき、それらが相互読みで発展・進歩しているか確かめていく。</p> </div> <p>【関】（努力を要する状況）への方策 聞き手は多様な受け取りをするものだとことを知らせ、だからこそ自分の思いを大切にしたい読みが重要であることを伝え、活動の意欲化を図る。</p> <p>【読】（努力を要する状況）への方策 内容の中心、好きな表現部分とその理由を一言で言い、その違いを説明し合うことで、読みの相違を読みの広がりとしてとらえられるようにする。</p> <p>【言語～知・理・技】（努力を要する状況）への方策 聞きやすさの観点で振り返り、最も大切にしたい表現の仕方を具体的に考えられるようにする。</p>	<p>【関・意・態】 友達に質問したり、友達の質問に対して自分の考えや思いを伝えようとしている（内容面）。 （観察、メモ、ビデオ録画考察、質問法）</p> <p>【読むこと】 【深め観点(内容・表現・語感)】にそって、自分なりに読みを広げたり深めようとしている。（観察、メモ、質問法）</p> <p>【言語～知・理・技】 【深め観点(声量・語感・間・速度)】に留意して本を音読しようとしている。（観察、メモ、質問法）</p>
<p>○友人の読みを聞き、気付いた点を話し合うことで読みの工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付いた点はプリント 	<p>20</p> <p>友人の読みを聞き、気付いた点を話し合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読への移行は班によって時間差が生じることが予想される。内容の読み取り状況と生徒の意向（じっくり考えたい⇔早く音読したい）とを兼ね合わせながら判断・助言し、適切な移行が図れるようにする。 ・個人の読み練習でないことを説明する。友人の読みを聞いて気付いた点を話し合うことがねらいであることを念押しする。 ・読み語りをする時には、友人から2m程度離れて読むようにして、実際の発表をイメージして行う。音読について話し合う時は近付いて行うよう指事をする。 	<p>【関・意・態】 友達に質問したり、友達の質問に対して自分の考えや思いを伝えようとしている（音声面）。 （観察、ノート、ビデオ録画考察）</p> <p>【言語～知・理・技】</p>

③にメモしておく。	・時間配分を工夫して、音読を交代しながら行うように指示する。 【言語～知・理・技】(努力を要する状況) への方策 聞きやすさの観点で振り返り、最も大切したい表現の仕方を具体的に考えられるようにする。	【深め観点(声量・語感・間・速度)】に留意して本を音読しようとしている。(観察、メモ、質問法)
○自己評価カード③の記録をする。	5 ・【深め観点(内容・表現・語感)】【深め観点(声量・語感・間・速度)】を柱として、各項目ごとに、自分の読みの広がりや深まりに関して自己評価するよう指示する。音読の工夫も読みの広がりや深まりであることを補足説明する。 ・評価カードを集める(個別指導や次時の指導に生かすために、メモ内容を分析しまとめ読みの際に生かす。また、2や1の欄に印をした生徒の指導の工夫を図る)。	

第4時(見通し3にかかわる授業。太枠部分が特に検証にかかわる部分。また授業後の質問やビデオ録画の考察等の方法を使っても検証を行う)

(1) ねらい

- 今までの活動で広がった読みを、読み手としての自分の思いを中心に読みまとめる。
 - ・最も伝えたい作品内容(自分がとらえた主題)をまとめ、それを読み表すのに必要な表現課題を自ら設定し、班で読み練習をし合いながら課題の解決を図る。
 - ・活動を通じて自分の読みに自分なりの自信を感じ取ることができる。

(2) 準備

(教師) 学習プリント④ 学習プリント④の拡大版(掲示用) 第1時の記録をまとめたプリント 自己評価カード④ ビデオカメラ

(生徒) 「読み語り」の本、筆記用具、

(3) 展開(4/6)

学習活動	時	学習への支援及び留意点	評価項目(評価方法)
		(学習プリント④は、事前に配布しておく、考える時間を与えておく。書き込んできてもよい)	
		作品内容(自分がとらえた主題)や筆者の思いを自分なりにまとめよう。	
○作品の中核をおさえる。	5	・一人読み→相互読み→まとめ読みの流れを押さえ、内容に中核を押さえ直すことの意義を説明し、意欲化を図る。 ・学習プリント④を拡大したものを掲示し説明する。	【関・意・態】 読みまとめ・課題設定・自己評価の活動を通じて、読みを深めてきたことに自分なりの自信を感じとれている。(観察、プリント内容、ビデオ撮影、自己評価より)
		思いを伝える表現課題を決める。	
○中核を聞き手に伝えるための表現課題を自分で設定する。	15	・拡大版を使って書き込みの仕方を説明する(特に、「～ができるように～する」という表現課題の設定法について)。 ・読みの工夫を図る部分が全体に及ぶ内容の場合は、「全体を通して」という表現にするように指示する。	
		班に分かれて読み語り練習をする。	【読むこと】
○読み手は表現課題をふまえて、班	25	・ねらいと手順の確認をするための説明をする。 *読み手は友人を園児と違って、表現課題を踏まえてゆっくり読み語るようにする。	【まとめ観点①(内容の中核)】にそって読みの再構成し、

<p>の人に て読み語り 練習をする。</p> <p>○聞き役の時 には、読み 手の課題に 対する工夫 や努力を留 意しながら 聞く。</p> <p>○気付いた点 を報告し合 う。</p>	<p>*聞き役の友人は、読み手の表現課題をあらかじめ知っておき、読み手がどのように課題に取り組み、工夫したり努力したりしているかを、視線をあげて聞くように心がける。</p> <p>*対話型の作品では、聞き手は受け答えもする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時記録より、「恥ずかしくない・笑顔で」を取り上げ、共通課題としてとらえことにより、雰囲気や和らげ楽しい活動にできるよう促す。 ・読み手は、本の表紙から裏表紙まで読み、「ありがとうございました。」で終了する。聞き手は拍手をする。 ・読み語り後に気付いた点を報告し合う。 <p>【読】（努力を要する状況）への方策 本の選択→一人読み→相互読みの授業記録や自分の思いを振り返りながら、「今の自分にとって内容の中核は何か」を口頭で言い、読みの変容を確認しやすくしていく。なお、聞きやすく読むことが困難である場合には、意味のまとまりを押さえるように指導していく。</p> <p>【関】（努力を要する状況）への方策 具体的な表現を例にとり、自分の読み方の工夫や配慮が、聞き手を大切に読みの深まり（変容）であることを知らせて、読み深めの自信を感じられるようにする。</p> <p>【言】（努力を要する状況）への方策 「どこを、聞き手が～できるように、～していきたい」の表現課題形式を利用し、個々に相談活動しながら自分の言葉で記入できるようにする。</p>	<p>自分の読みをまとめている。（観察、プリント内容、自己評価より）</p> <p>【言語～知・理・技】 【まとめ観点②（表現課題）】に留意しながら自分で中心的な表現課題を設定できる。また、具体的な部分で工夫しながら読み表そうとしている。（観察、質問法、評価より）</p>
<p>活動を振り返って自己評価する。</p>		
<p>○活動を降 りかかって 自己評価 する。</p>	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードを配布し、記録内容の様子を移動しながら観察する。 ・今後の日程を説明する。「課題は決められたが、まだ練習不足なのでもっと練習しておきたい」「保育園に行く前に、練習をして、また友達に聞いてもらおうと思った」などに○がついている状況を伝え、発表日までの意欲の継続化を図る。 	

授業後から「読み語り」当日（園児に向けて）までの期間で

<p>○各自で自主 的な練習を 行う。</p> <p>○指導者や友 人に質問を するなどの 活動を行 い、個々の 課題の解決 を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「本の持ち方」「ページのめくり方」についてのみ、プリントにして配布し、練習しておくように指示する（プリントの内容は平易なものとし、「読み語り」の技術ということのみにとらわれないよう、持ち方やめくり方の配慮が読み手のどんな思いから生まれているのか考えられるようにしておく。プリント内容は、「読み聞かせわくわくハンドブック・代田知子著・一声社」を参考にして作成する）。 ・家庭でも「読み語り」の練習をしておくように励ます。特に家族の人に音読を聞いてもらおうと、助言をいただけたりするのでよい練習になると勧める。 	
---	---	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の質問や相談にも、始業前・昼休み・放課後等の時間を使って対応する。 ・第4時までの取り組みに不十分さを感じた生徒に対しては、指導者側から相談の機会を設け、意欲的な活動となるよう、個の実態に即した助言をする。 ・団体で行動する園児に向けての「読み語り」ではなく、個人的に聞き手を決めて取り組んできた生徒は、練習を重ねた後、適宜「読み語り」の実践を行う。実践後には、レポート「読み語りをやってみて」の聞き手の感想欄に記述してもらい提出するように指示する。 ・聞き手協力施設（今回は保育園・園児）との連絡を密に行い、細かな点まで最終確認をする。（当日の日程、園側の要望、指導者側の要望、生徒が取り組んでいる本の内容及び所用時間、園内での班分け（聞き手）、それに対する読み手側の班分け、生徒の移動方法及び所要時間等の変更点について）
--	---

第5・6時（見通し1～3の授業で身に付けた読みを発表する場。また授業後の感想、質問法、ビデオ録画の考察等の方法を使って検証の一助とする）

(1) ねらい

- 聞き手を尊重しながら、自分でまとめた読みを「読み語り」することができる。
- 「読み語り」をすることを通して、本の内容理解を深め、読み深めの成果を確かめることができる。
- 自分で工夫したい表現課題に留意して読み表そうとする。

(2) 準備

- (教師) 学習プリント⑤ ビデオカメラ 読み語りチーム名札
- (生徒) 「読み語り」の本、予備の本 筆記用具

(3) 展開（5・6／6）

学習活動	時	学習への支援及び留意点	評価項目(評価方法)
○保育園に移動。	20	(保育園までの移動、交通関係の配慮等万全にしておく。読み語り活動の環境を、相手先と協力して整えておく。)	<p>【関・意・態】 聞き手を尊重して「読み語り」を行おうとしている。</p> <p>【読むこと】 聞き手を尊重しながら、自分でまとめた読みを音読することで理解を深め、読み深めの成果を確かめることができる。</p>
○読み語りの準備をする。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園に移動・整列・挨拶。 ・班別に園児と共に各会場へ移動。 	
○読み語りをする。	30	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに挨拶。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>生徒は3～4人で1班。合計10班編成。班の代表者は班の名札を付ける。各班に対して6～7名の園児が聞き手となる。各班の読み語り会場は、教室・ホール・遊戯室・廊下などを利用し、班ごとの音声ができるだけ重ならないようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者3名は、3ブロックに分けた各担当班をまんべんなく観察し、必要に応じて支援する。園職員が付いてくれる班もあるので支援について依頼しておく。 ・読み深めてきたことに自信をもち、聞き手を大切にしたい読み語りとなるように助言する。また、聞き手の反応をできる限り受け入れて、コミュニケーションをとる気持ちで行うよう助言する。聞き手になっている場合は、読み手と園児の双方を観 	

	<p>察するようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児、保護者、園関係者等への感謝の気持ちを大切にする。 <p>【関】（努力を要する状況）への方策 「生徒の発表意欲は高いものがある。意欲の高まりから緊張しすぎる傾向さえある。そこで、事前に「相手を尊重して」「積極的に」「笑顔」「ゆっくり」「大きめの声」などを発表前に確認し、発表中も緊張しすぎている場合には班員を通じてリラックスするように助言する。</p> <p>【読】（努力を要する状況）への方策 帰校後、ワークシートの記述をもとに個別に指導。</p> <p>【言】（努力を要する状況）への方策 帰校後、ワークシートの記述をもとに個別に指導。ただし、「相手を尊重して」「積極的に」の意味で不足がある場合、「笑顔」「ゆっくり」「大きめの声」など、関心・意欲・態度面に関してその場で助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定の本を読み終えて、時間がある場合、園児の様子や要望に応じて、同じ本を再度読んだり予備の本を読んだりして、積極的に時間を活用するようにする。 	<p>【言語～知・理・技】 自己の表現課題に留意しながら、体的な部分で工夫しながら読み表そうとしている。</p>
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・予定時間をみて、全体集合の場所へ、各班ごとに集合。 ・整列・挨拶・園職員より助言をいただく。
○帰校。	20	<ul style="list-style-type: none"> ・帰校。
○自己評価をする。	15	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の感想・自己評価を行う。 ・園児の反応を参考にするように助言する。